

（案）第 3 章 分野別計画

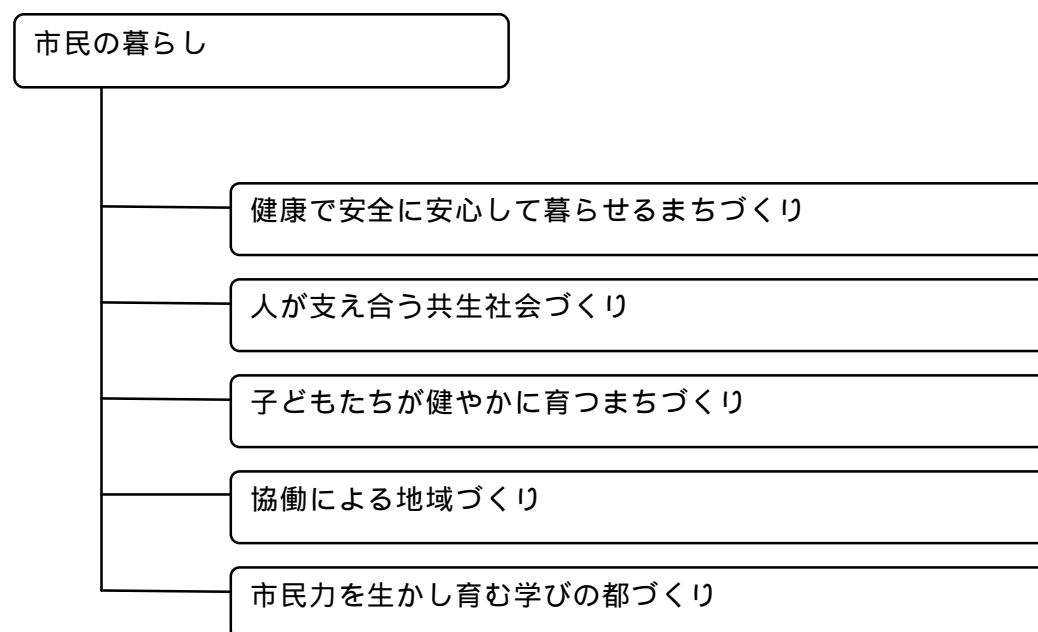
市民の暮らし（5 分野 28 基本的施策）

- 健康で安全に安心して暮らせるまちづくり（8 基本的施策）
- 人が支え合う共生社会づくり（6 基本的施策）
- 子どもたちが健やかに育つまちづくり（4 基本的施策）
- 協働による地域づくり（3 基本的施策）
- 市民力を生かし育む学びの都づくり（7 基本的施策）

都市の魅力（6 分野 22 基本的施策）

- 自然と調和する持続可能な環境都市づくり（5 基本的施策）
- 美しく緑豊かな都市空間づくり（3 基本的施策）
- 機能集約・地域再生型の市街地の形成（4 基本的施策）
- 公共交通中心の利便性の高い交通体系の構築（3 基本的施策）
- 地域を支える経済・活力づくり（4 基本的施策）
- 魅力を向上する都市力づくり（3 基本的施策）

(「市民の暮らし」分野の体系)



(1) 健康で安全に安心して暮らせるまちづくり

(動向と課題)

生活習慣病の予防など、健康づくりが求められている。

社会問題化している自殺やひきこもりへの対応が求められている。

救急需要が増加傾向にあり、限られた医療資源を有効活用する救急医療体制が求められている。

病原性の高い感染症の流行や食の安全を脅かす事件・事故の発生などに備えて、危機管理の対策が求められている。

近い将来に発生が確実視されている宮城県沖地震をはじめとする災害に対し、都市基盤や住宅などの安全の備え、自助・共助による防災・減災が求められている。

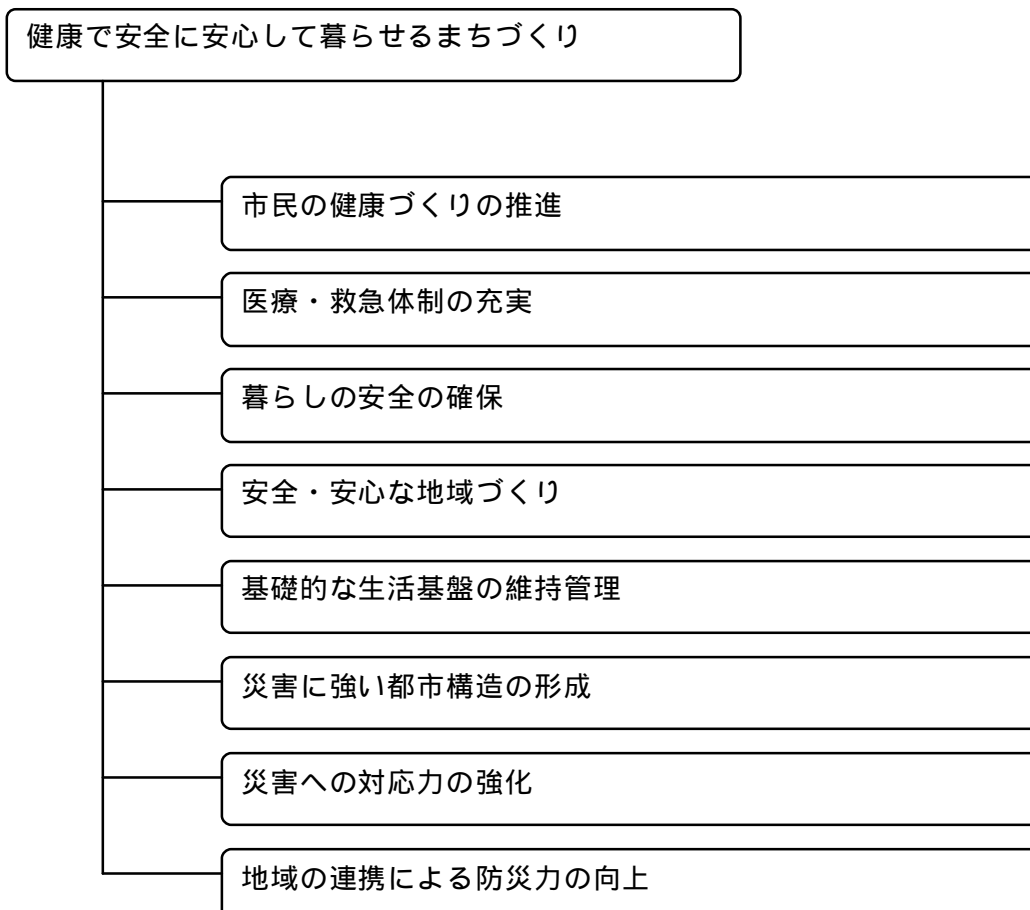
(施策の方向)

すべての市民が心身ともに健康に安心して暮らすことのできるまちづくりを進める。

日常生活の基盤となる生活環境の計画的な維持・保全を進める。

宮城県沖地震の発生等に備え、被害を最小限に抑えるため、災害に強いまちづくりを進める。

(施策の体系)



（基本的施策）

市民の健康づくりの推進

- ・ 健康増進センターの機能を充実するなど、生活習慣病の予防を図り、市民の健康づくりを促進する。
- ・ 基礎健康診査やがん検診などを進め、壮年期から高齢期までライフステージに応じた健診体制を構築し、疾病の早期発見・早期治療を図る。
- ・ 食育推進会議等により関係機関の意見を生かしながら、健康的な食習慣の確立や生活習慣病の予防を図る食育を推進する。
- ・ ひきこもり地域支援センターを設置するなど、相談体制を強化するとともに、支援団体とのネットワークを強化し、ひきこもりへの早期介入・早期支援を図る。
- ・ 自殺予防のさらなる啓発や、相談支援体制の強化を進めるとともに、関係機関と連携し、自殺対策の推進を図る。

医療・救急体制の充実

- ・ 内科や外科、小児科の初期および二次救急患者を受け入れる救急医療体制の充実を図る。
- ・ メディカルコントロール体制の充実や医師等の救急現場の活動体制の整備、救急救命士の養成や救急資器材の整備等などにより、救急体制を強化するとともに、救命講習の実施などにより、市民の応急救護技術の向上を図る。
- ・ あすと長町に、急性期を中心とする医療を提供するとともに、救命救急医療や小児救急医療、災害時医療などの政策的医療を実施する新市立病院を建設する。
- ・ 身体的疾患を併せ持つ精神疾患患者に対応する精神科救急医療体制の整備を進める。

暮らしの安全の確保

- ・ 市民の生命や財産に重大な被害が生じる恐れのある事態や、パンデミックの恐れのある感染症などに備え、医療機関のネットワークを支援するなど、危機管理体制を充実する。
- ・ B S E や食中毒の原因となるノロウィルスの検査、H A C C P による衛生管理手法の普及やリスクコミュニケーションの推進など、食生活の安全を確保する体制づくりを進める。また、中央卸売市場の機能を充実し安全・安心な生鮮食料品等を安定的に供給する。
- ・ 消費者教育・啓発の推進、相談機能の強化など、消費者被害の未然防止・拡大防止に取り組み、消費者の安全と利益を守る。
- ・ 民間建築物の吹き付けアスベストの除去を促進する。

安全・安心な地域づくり

- ・ 地域ぐるみの防犯活動やマナーアップなど、関係機関と連携して犯罪の起きにくい環境の整備を進める。
- ・ 交通安全意識の啓発や交通安全教室の開催、交通事故等の減少に向けた交差点改良など、交通事故のない社会の構築を図るとともに、交通事故被害者の支援を行う。
- ・ 公園等の公共施設の適正な管理や防犯団体の支援など、安全の確保と防犯性の向上を図る。

基礎的な生活基盤の維持管理

- ・ 公共施設について、新設から運営管理、改修、更新・廃止までのライフサイクルに沿った総合的・体系的なマネジメントにより、効果的・効率的な管理体制を整備するとともに、日常生活の安心の基礎となる生活基盤を維持する。
- ・ 老朽化が進んでいる公共施設の長寿命化など建築物系のマネジメント、道路橋や公園の長寿命化など面的基盤系のマネジメント、下水道施設や水道管、ガス管の計画的更新など地下埋設系のマネジメントを的確に類型化しながら、計画的なコスト縮減や効率的な運営に取り組む。
- ・ 公衆衛生の向上のため、汚水暗渠の計画的な整備や、公設公管理浄化槽の普及を進める。
- ・ 動物管理センターの機能充実や適正な飼養の啓発など、動物と共生することができる環境づくりを進める。
- ・ 需要に応じた環境調和型の墓園の整備などを進める。

災害に強い都市構造の形成

- ・ 市有建築物や上下水道施設、橋りょう、ガス管等の耐震化を進めるとともに、民間建築物の耐震化を促進する。
- ・ 緊急輸送道路の優先的整備や、その沿道の建築物の耐震化を進める。
- ・ 雨水ポンプ場や農業施設の整備等の雨水排水対策の推進、河川改修など、治水安全度を高める。

災害への対応力の強化

- ・ 災害対策本部の機能強化や職員の対応力の向上に取り組むとともに、災害対策用資器材の整備などの初動体制の強化や災害用備蓄物資の整備を進め、宮城県沖地震等の大規模災害発生時の被害を最小限に抑える。
- ・ 消防車両の整備更新、消防救急無線のデジタル化、総合防災情報システム設備機器の更新、防火水槽の整備などを進め、消防力の向上を図る。
- ・ 津波避難標識の設置、土砂災害の防止対策、住宅の防火対策、林野火災対策、台風や集中豪雨の対策などに取り組み、多様な災害への消防力を高める。

地域の連携による防災力の向上

- ・ 防災意識の動向を把握しながら、女性や若者、高齢者などの対象者ごとに工夫して防災・減災知識の普及啓発を進めるとともに、消防団活動の充実を図るなど、防災対応力の向上を図る。
- ・ 地域の活動団体や福祉団体と協働しながら、地域防災リーダーの養成や自主防災組織への支援、地域と協働した防災訓練の実施、災害時要援護者支援の取り組みの推進など、地域防災力の向上を図る。

(2) 人が支え合う共生社会づくり

(動向と課題)

一人暮らしの高齢者や高齢者のみで構成される世帯が増加するとともに認知症高齢者が増加する傾向にあり、地域での支え合いが求められている。

高齢化が進行するなか、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活することのできる環境づくりがより求められている。

社会状況の変化により障害者が増加傾向にあり、地域での支え合いが求められている。

本市の外国人登録者数は留学生を中心に増加傾向にあり、外国籍市民が暮らしやすい社会が求められている。

意思決定の場における女性の参画の推進、雇用や社会生活における男女の対等な参画が求められるとともに、女性に対する暴力の根絶が課題となっている。

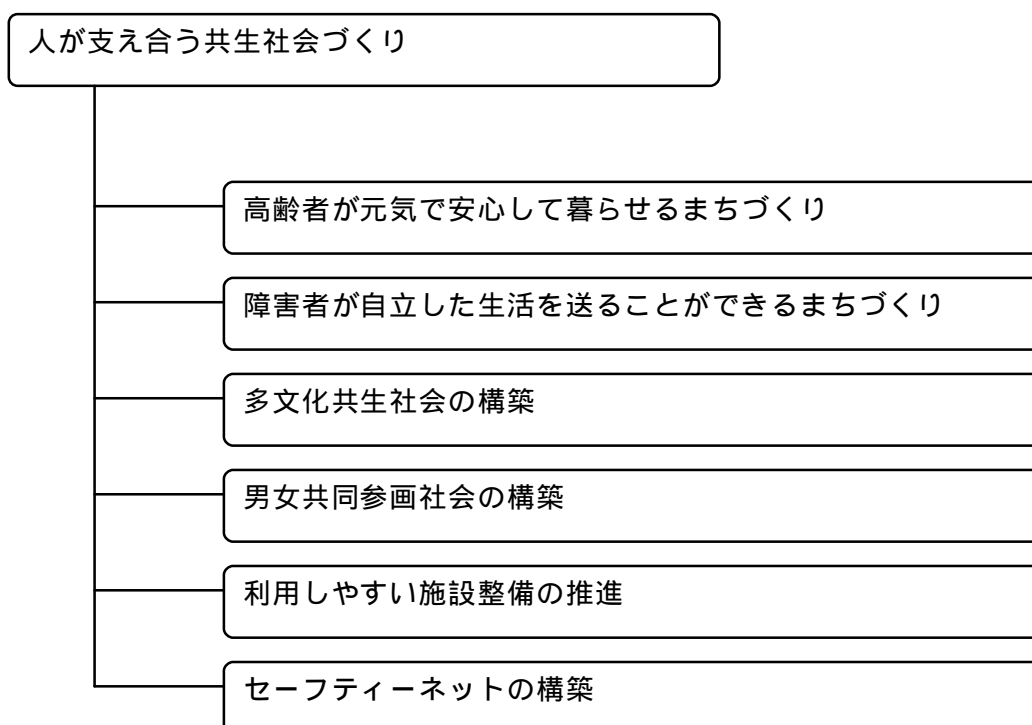
(施策の方向)

すべての市民が、障害の有無、年齢、性別、国籍などにかかわらず、互いに尊重し、共に支え合う共生社会づくりを進める。

外国籍市民がその能力を発揮しながら、地域社会の構成員として共に生きていくことができる社会づくりを進める。

男女が社会の対等なパートナーとして認め合い、それぞれが、あらゆる分野で自らの能力を発揮できる社会づくりを進める。

(施策の体系)



(基本的施策)

高齢者が元気で安心して暮らせるまちづくり

- ・ 介護予防の普及啓発を進めるとともに、身近な地域で活動する介護予防自主グループや、スポーツ、文化・芸術活動等の多様な生きがいがづくり、世代間交流をはじめとした幅広い活動を支援するなど、総合的な介護予防を推進する。
- ・ 急速に進行する高齢化を見据え、持続可能な敬老乗車証について、検証しながら適切な制度の構築に努め、高齢者の外出活動を支援する。
- ・ 認知症に関する正しい知識の普及啓発や、早期発見・早期対応することのできる環境の整備を図り、認知症の人とその家族への支援を充実する。
- ・ 地域包括支援センターの機能を充実するとともに、ボランティア団体等が行う配食サービスの支援など、在宅保健福祉サービスを充実する。
- ・ 在宅での生活が困難になった要介護者のさまざまなニーズに対応できるよう、特別養護老人ホーム、老人保健福祉施設、認知症高齢者グループホーム、小規模多機能型居宅介護事業所等の整備を進め、多様な介護サービスの提供を図る。

障害者が自立した生活を送ることができるまちづくり

- ・ ホームヘルプサービスやグループホームなどの保健福祉サービスを充実し、障害者の自立した地域生活を支援する。
- ・ 医療的ケアが必要な障害者が地域で安心して生活を送ることのできる環境づくりを進める。
- ・ 障害児通園施設の整備やレスパイトサービスの充実等を図り、障害児とその家族の地域生活を支える。
- ・ 児童デイサービスや障害児タイムケアなどの障害児放課後ケアを充実し、障害児が放課後などに地域で安心して過ごせる環境づくりを進める。
- ・ (仮称) 青葉障害者福祉センターの整備などにより、地域におけるリハビリテーションを推進する拠点の整備を進める。
- ・ 地域リハビリテーションシステムの中核を担う専門機関として、(仮称) 身体障害者総合支援センターを整備する。
- ・ 発達相談支援センターを市南部地域に整備し 2 館体制とするとともに、発達相談支援センターや自閉症相談センター等による支援体制を強化し、発達障害者の地域生活を支援する。
- ・ 入院中の精神障害者が安心して地域生活に移行することができるよう、退院促進や退院後の地域生活を支援する。
- ・ 障害者就労支援センターを中心とし、就労移行支援事業所や労働関係機関等との連携を強化し、働く場の創出や能力開発の支援など、障害者の就業の支援を進める。
- ・ スポーツや文化・芸術活動等を通じ、障害者の自立と社会参加を促進するとともに、障害者に対する市民の関心と理解を深める。

多文化共生社会の構築

- ・ コミュニケーション支援や生活支援などを進め、国籍や民族、言語などの差異に関わら

ず、互いに文化的差異や多様な価値観を認め合い、尊重する意識を高め、それぞれの生活様式や文化を受容し合う多文化共生社会の構築を図る。

- ・ 仙台国際交流協会と連携し、留学生等の能力を生かした地域づくりを進めるとともに、市民の多文化理解を促進する。

男女共同参画社会の構築

- ・ 政策形成や意思決定の場への女性の参画を進めるとともに、男性の男女共同参画に対する理解と積極的な参加を促進する。また、女性への暴力の根絶を図り、女性の人権が尊重される環境づくりを促進する。
- ・ 男女共同参画推進センターを拠点施設として、市民や企業等のさまざまな主体と連携し、暮らしや働き方の見直し、女性に対する暴力の根絶に向けた意識の醸成を図るなど、男女共同参画社会の構築を進める。

利用しやすい施設整備の推進

- ・ 不特定多数が利用する公共的施設の新設や大規模改修に当たっては、高齢者、障害者を含めたすべての生活者・利用者の視点に立ったバリアフリーを進める。
- ・ 民間施設の新設・改修の際、バリアフリーを促進する。
- ・ 無電柱化の推進や歩道の整備、都心の歩行空間の段差解消など、歩行者が安心して移動できる環境づくりを進める。

セーフティーネットの構築

- ・ 相談体制の強化や支援策の周知などにより、低所得者の自立を支援するとともに、自立支援施設の運営や相談機能の充実などにより、ホームレスの社会復帰を支援する。
- ・ 中小企業の勤労者福祉を進める。
- ・ 住宅セーフティーネットの核となる市営住宅について、高齢者等に配慮しながら、適正な供給量を把握し整備を進める。

(3) 子どもたちが健やかに育つまちづくり

(動向と課題)

核家族化や共働き世帯の増加、地域のつながりの希薄化等により、孤立化の恐れのある子育て家庭に対する地域における支援が求められている。

核家族化や高度情報化の進展、親の意識の変化等により、家庭の教育力の低下、子どもと地域社会とのつながりの希薄化が危惧されるなか、子どもの生きていく力を育むために、家庭、地域、学校の連携による家庭と地域社会の教育力の向上が求められている。社会経済状況の変化が激しいなか、子どもたちが社会でたくましく生きていく力の育成が求められている。

経済状況や雇用環境が変化するなか、安心して子どもを生み育てられる環境の整備が求められている。

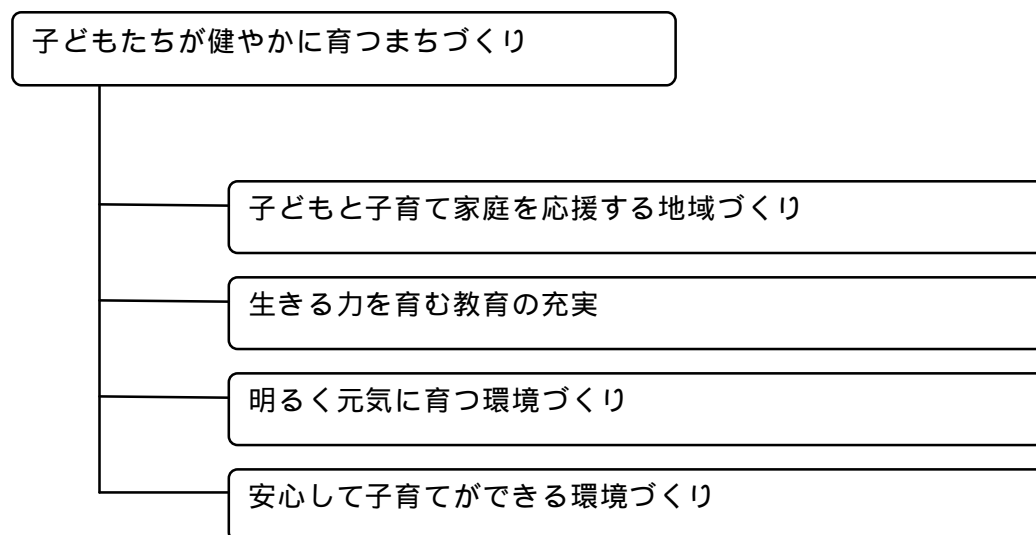
保育ニーズの増加や多様化への対応が求められている。

(施策の方向)

次世代を担う子どもが健やかにたくましく成長するまちづくりを進める。

安心して子どもを生み育てることができるまちづくりを進める。

(施策の体系)



(基本的施策)

子どもと子育て家庭を応援する地域づくり

- ・ 地域における子育て支援の拠点となる子育てふれあいプラザ（のびすく）を中心とした子育て支援ネットワークの構築・活性化を図る。
- ・ 保健福祉センターの地域での取り組みや、地域に根ざした子育て支援センター等の相談活動等を通じ、子育てサークルを支援するなど、子育て家庭の育児不安の軽減と孤立化の防止を図る。
- ・ 子育て講座や各種の教育相談、基本的な生活習慣づくりなどの取り組みにより、家庭教育の充実を支援するとともに、学校支援地域本部の充実などにより、家庭・地域・学校が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりを進める。
- ・ 地域住民やＰＴＡなどからなる学校ボランティア防犯巡視員の支援・育成など、家庭、地域、関係機関、学校が連携し、児童生徒の安全確保に取り組む。

生きる力を育む教育の充実

- ・ 子どもたちが社会でたくましく生きていくことができるよう、児童生徒の学力の的確な把握・分析、教育指導の充実、少人数学習の推進など、基礎的知識の習得、応用力の育成、学習意欲の向上により、確かな学力の育成に取り組む。
- ・ 子どもたちが自立した社会人となるための力を育むため、職場見学や職場体験活動を実施するなど、自分づくり教育を推進する。
- ・ 健やかな体の育成に向けて、バランスよく食べる食習慣、体力向上につながる運動習慣、規則正しい生活習慣の確立に向けた総合的な取り組みを進める。
- ・ 老朽化した学校給食センターの建替えを進め、食物アレルギー対応食の提供を進めるとともに、学校給食提供環境の向上を図る。
- ・ スクールカウンセラーや、さわやか相談員等を配置するとともに、適応指導センターなどを通じ不登校児童生徒を支援するなど、児童生徒の悩みや問題の解決の支援を行う。
- ・ 指導補助員による学校生活の支援など、障害のある児童生徒の教育の充実を図る。
- ・ 学校の過大規模校化や老朽化等へ対応した学校施設の整備を進めるとともに、情報化の推進を図る。
- ・ 市立高校、中等教育学校の各校の目的に沿ったキャリア教育を充実するなど、特色ある高校教育、中高一貫教育を推進する。

明るく元気に育つ環境づくり

- ・ 地域における子どもと大人との交流や、子どもの自然体験・社会体験の支援など、豊かな体験活動の場と機会の充実を図る。
- ・ 子どもの読書活動の拠点を充実するなど、子どもが図書に親しめる環境づくりを進める。
- ・ 子どもと子育て家庭の地域における活動拠点となる児童館の整備を進め、子どもの健全育成を図る。
- ・ 放課後子ども教室と児童クラブを連携して実施する放課後子どもプランを推進し、放課後等における児童の安全で健やかな居場所づくりを進める。
- ・ 子どもの権利についての意識啓発に取り組むとともに、関係機関との連携を強化し児童

虐待へ対応するなど、支援を要する子どもへの支援策を推進する。

安心して子育てができる環境づくり

- ・ 公的保育サービスの拡充に努めるとともに、家庭的保育や訪問型保育等の小規模保育サービスを活用し、保育を希望する人のすべてのニーズがかなえられるよう、保育所待機児童の早期解消に努める。
- ・ 公立保育所の民営化を計画的に推進するとともに、幼稚園がその意向に応じて三歳未満児保育の担い手となるよう支援するなど、既存の保育資源を活用しながら保育サービスを充実する。
- ・ 保護者の就業形態などによるニーズの多様化に対応するため、延長保育、一時預かり保育、休日保育、病児・病後児保育などを充実するとともに、保育所職員の研修の充実など、保育の質の向上を図る。
- ・ 乳幼児の医療費助成など、保護者の負担軽減を図る。
- ・ 企業に対する育児支援制度の普及・啓発、男性の育児参加の促進など、子育てと就労の両立を支援する。
- ・ 生活全般にわたる相談や就業に関する支援など、ひとり親家庭等の自立に向けた支援を進める。

(4) 協働による地域づくり

(動向と課題)

他の政令指定都市と比較すると町内会加入率が高く、町内会が熱心に地域活動を行ってきた。

地域活動やNPOなどの市民活動の分野で全国に先駆けた取り組みが行われるとともに、市民活動サポートセンターから多くの団体が育ち、さまざまな活動が行われてきた。

高齢化の急速な進展などから、高齢者世帯への支援や災害への対応、犯罪の抑止、交通安全など、地域における課題は増加している。

人口動態や人口構成、住環境、人のつながりなど、地域ごとに置かれている状況が異なり、地域の課題は多様化・複雑化しており、きめ細かな対応が求められている。

高齢者、障害者、子育て家庭等のさまざまなニーズに対し、地域全体で支え合う仕組みが求められている。

培われてきた市民と行政との協働によるまちづくりを進化させ、市民の知恵と創意がより生かせる市民の主体的な参画を推進するための新たな仕組みの構築が求められている。

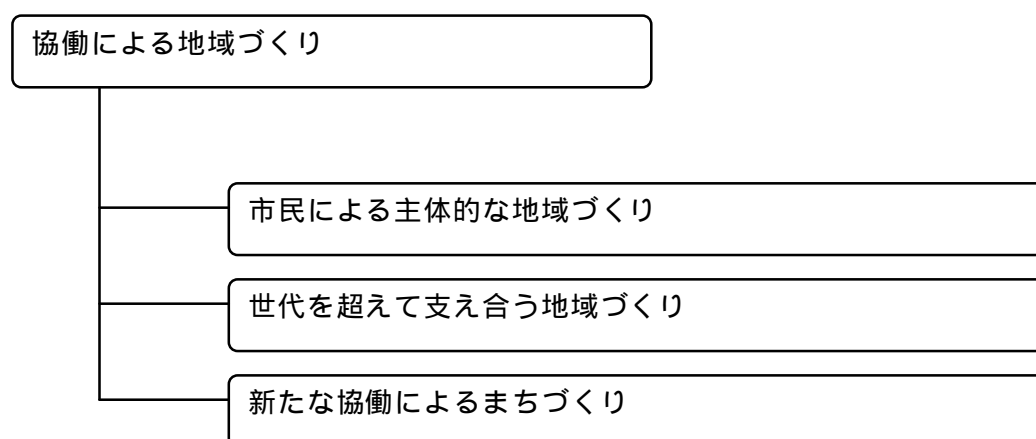
(施策の方向)

地域特性に応じ、地域にある施設の利活用を図りながら、地域住民が主体的・自主的に課題の解決に取り組むことのできる仕組みづくりを進める。

地域の子ども、子育て家庭、高齢者、障害者を支える地域づくりを進める。

新たな協働の仕組みにより、地域団体やNPO、ボランティアなどの力を生かしたまちづくりを進める。

(施策の体系)



（基本的施策）

市民による主体的な地域づくり

- ・ 町内会や地区社会福祉協議会、PTA、地区防犯協会などのさまざまな地域団体や市民活動団体、地域住民が集い、地域の情報や課題、地域づくりの理念を共有する機会の創出を図る。
- ・ 地域の特性を踏まえ、多様化・複雑化する地域課題の解決を図る事業や、さまざまな地域活動の担い手の育成、地域資源の発掘・共有を進め、地域の主体的な活動を支援する。
- ・ さまざまな地域活動の中心的役割を担う町内会活動を支援するとともに、マンション等の集合住宅における町内会形成を促進する。
- ・ 地域に身近な市民センターを地域づくりの拠点とし、地域のコーディネート機能や人づくり機能など、地域づくりの拠点としての機能を強化する。
- ・ 区役所と市民センターが一体となった地域支援体制の構築を進める。
- ・ 市民センターやコミュニティ・センターについては、地域のニーズに合わせて利便性の向上を図りながら、計画的な整備・更新を進めるとともに、地区集会所の整備を支援し、地域の活動拠点の充実を図る。

世代を超えて支え合う地域づくり

- ・ 地域における見守り活動やサロン活動を支援するなど、地域保健福祉の充実を図る。
- ・ 高齢者が高齢者を支える活動や、NPO・ボランティア団体が行う高齢者支援活動を促進する。
- ・ 高齢者や障害者、子育て家庭などのさまざまなニーズに対し、地域と行政が協働し、必要とときに効果的な支援を行うための支え合いのネットワークの構築を図る。
- ・ 判断能力が低下した高齢者や障害者が安心して住み慣れた地域で生活できるよう、成年後見制度の利用支援を行う。

新たな協働によるまちづくり

- ・ 市民と行政との協働や市民参画に関する基本理念や具体的な取り組みを示す指針を策定する。
- ・ 市民が政策形成の過程や施策の評価等へ積極的に参画することができるよう、新たな仕組みの構築を進める。
- ・ 多様化・複雑化する地域課題に柔軟・迅速に対応することができるよう、市民団体等の提案により事業を実施する協働事業の仕組みの構築を進めるとともに、企業による社会貢献活動を促進する。
- ・ 市民と区役所との協働事業、市民団体の地域づくり活動の支援、公園愛護協力会や河川愛護団体の支援など、安全・安心や防災、子育て、地域福祉、環境等のさまざまな分野で、地域特性・資源を生かした地域づくりを進める。
- ・ 市民センターや市民活動サポートセンター、シニア活動支援センターの拠点機能を充実し、市民活動の場の提供や情報の提供・発信を行うとともに、多様な市民活動をコーディネートする人材やボランティアを育成する仕組みづくりを進める。

(5) 市民力を生かし育む学びの都づくり

(動向と課題)

仙台には、歴史や文化などの蓄積されてきた資源や市民発のさまざまなイベントなど、貴重な資産がある。

博物館系の施設においては、施設間の連携の動きが始まっている。

成熟社会を迎え、人々の価値観が量から質に変わるなか、真の豊かさを実現するために、学習や体験、遊びなどを通した学びの環境が求められている。

自立した個人や地域社会の形成に向けた生涯学習機会の充実が求められている。

仙台は東北の中核都市として大学や企業が集積し、多くの若者が集まる環境にあり、家庭や学校で蓄積してきた知恵や知識を広げていく若者期に、変化が激しい社会を生きていく力を培うことが求められている。

生産年齢人口が減少するなか、社会活動を支える一員としての高齢者の役割が増大しており、高齢者の一層の社会参加が求められている。

(施策の方向)

仙台の個性であるまちの資源を生かし、学習や体験、遊びなどを結び合う学びの環境づくりを進める。

健やかさや創造性の源泉となるスポーツや文化・芸術を振興する。

学生を中心とする若者の力を培い、経験豊かな高齢者の活力を高め、それらを生かしたまちづくりを進める。

(施策の体系)

市民力を生かし育む学びの都づくり

多様な学びの場の発掘・充実

学びの連携による交流と新しい価値の創造

市民の健やかさを生み出すスポーツの振興

市民の創造性を生かす文化芸術の振興

大学と連携したまちづくり

若者の力を生かしたまちづくり

高齢者の知恵・知識を生かしたまちづくり

(基本的施策)

多様な学びの場の発掘・充実

- ・ 市民センターについて、多様なニーズに対応した学びの場としての機能の充実を図る。
- ・ 泉岳少年自然の家を改築整備し、学校教育における集団宿泊活動や、自然体験・野外活動の支援の充実を図る。
- ・ 博物館や科学館などの生涯学習施設の機能を充実するとともに、せんだいメディアテークにおいて、美術や映像を利用した創造性を育む機会の拡大を図る。
- ・ 図書資源の適正配置やネットワーク化を進めるなど、図書館の機能とサービスの充実を図る。
- ・ 動物園について、動物のいきいきとした行動を引き出す展示を工夫するとともに、施設のリニューアルなどを図り、魅力ある動物園づくりを進める。
- ・ 陸奥国分寺跡や陸奥国分尼寺跡、郡山遺跡などの貴重な文化財の保全を進めるとともに、歴史や文化に親しめる場としての活用を図る。
- ・ 仙台城跡について、市民や観光客が親しみ学ぶことができるよう、歴史的・文化的空間としての整備を進める。

学びの連携による交流と新しい価値の創造

- ・ 仙台・宮城ミュージアムアライアンスを充実するなど、多様な学びの場のネットワーク化を進め、暮らしを豊かにする新しい価値の創造を図る。
- ・ 歴史的・文化的資源の保全や発信、祭りやイベントなどの地域資源の運営や創出に取り組むNPOやボランティア団体、地域団体等の結びつきを強化する仕組みづくりを進める。
- ・ 観光資源と連携した、学びをテーマとするツーリズムを促進する。
- ・ さまざまな分野における学びの成果を相互に活用して、新たな活動につながる循環の仕組みづくりを進める。

市民の健やかさを生み出すスポーツの振興

- ・ 地域スポーツ活動団体を支援するなど、すべての市民がライフステージに応じてスポーツに親しみ、心と体の元気を育むことのできる環境づくりを進める。
- ・ 市体育館や泉総合運動場などの計画的な改修、旭ヶ丘地区の温水プールの整備など、多様なスポーツ環境の整備を進める。

市民の創造性を生かす文化芸術の振興

- ・ せんだい演劇工房10-BOXを中心とした市民主体の舞台芸術の振興を図るとともに、都心を会場としたアートイベントの開催や気軽に楽しめるアウトリーチ型文化芸術の振興、仙台ジュニアオーケストラの支援、古典芸能の普及などを進め、市民が文化芸術に親しむとともに、創造性を発揮できる機会の創出を図る。
- ・ 仙台発の芸術作品に市民が親しめる機会の充実を図るとともに、創造的文化活動の拡大と交流を促進する。
- ・ 文化・芸術の創造・鑑賞など市民の文化活動の拠点として整備している文化センターを

計画的に改修・修繕するとともに、（仮称）宮城野区文化センターを整備し、市民交流の促進と地域文化の振興を図る。

大学と連携したまちづくり

- ・ 学都仙台コンソーシアム等を生かし、大学間の連携を深め、市民公開講座の活動を支援するなど、知的資源を生かしたまちづくりを進める。

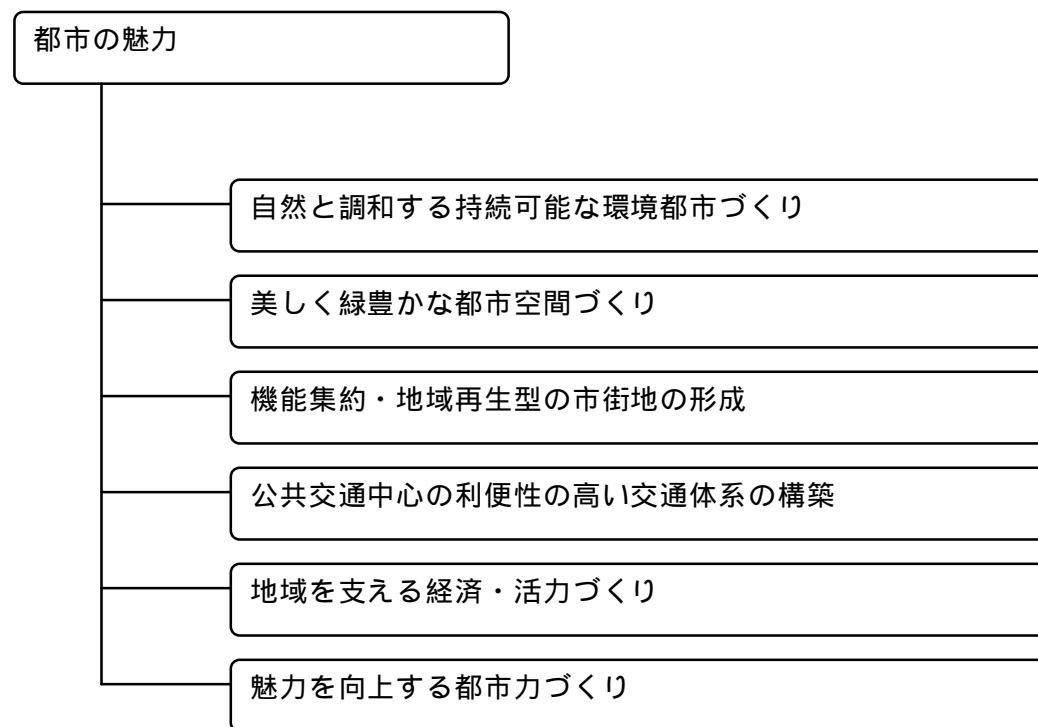
若者の力を生かしたまちづくり

- ・ 学生を中心とする若者のインターンシップ等による経済活動や地域活動への参加を促進し、その体験を通して若者の力を育むとともに、まちの活力を高める。
- ・ 若者が地域への関心を高め、自発的に市民活動に取り組めるよう、市民センターにおいて、各種の事業を展開する。

高齢者の知恵・知識を生かしたまちづくり

- ・ シルバー人材センターや豊齢学園などを通じ、高齢者の積極的な社会参加活動を支援するとともに、地域の老人クラブや老人福祉センター、老人憩の家などの高齢者の生きがいづくりの拠点を支援する。
- ・ 高齢者が培ってきた知恵や知識を地域社会に還元できるような仕組みづくりを進める。

(「都市の魅力」分野の体系)



(1) 自然と調和する持続可能な環境都市づくり

(動向と課題)

低炭素社会の構築が世界的な課題となるなか、環境負荷の小さい都市構造の形成やライフスタイル・ビジネススタイルへの転換が求められている

世界的な資源・環境制約が高まるなか、流通消費都市としての本市の特徴を踏まえ、廃棄物の減量や資源の循環に取り組んでいく必要がある。

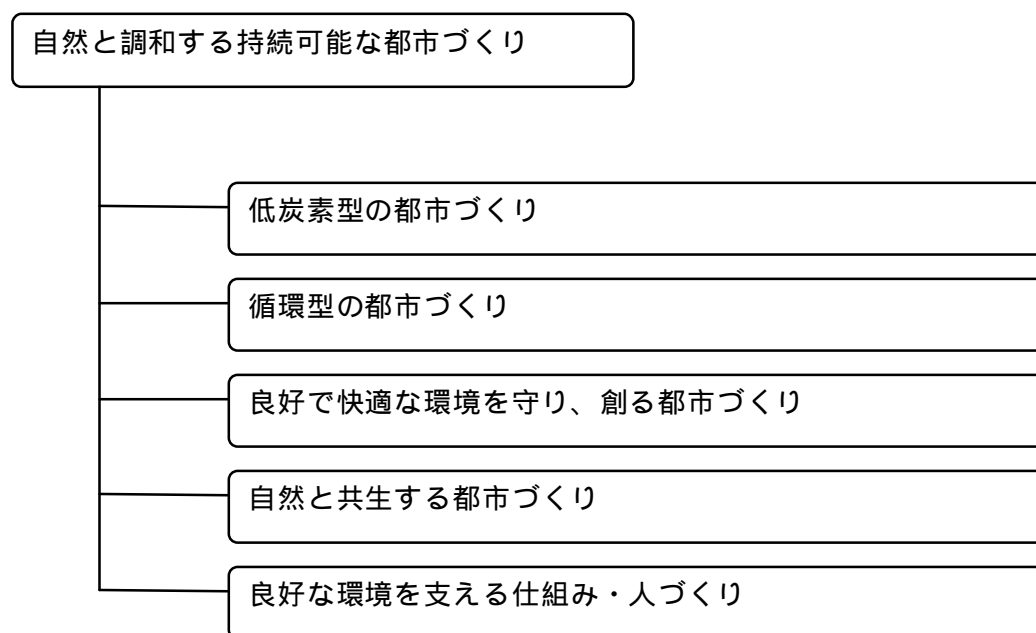
杜の都の貴重な資源として育まれてきた自然環境や緑地・農地等の保全、生き物の多様性の保全が求められている。

(施策の方向)

都市の社会経済活動や都市づくりの中に、省エネルギー・省資源の仕組みが組み込まれた環境負荷のより小さい持続可能な都市づくりを進める。

杜の都の豊かな自然を守り、環境負荷が小さく機能が集約した都市を目指すため、原則として市街地の拡大を伴わない自然と共生する都市づくりを進める。

(施策の体系)



（基本的施策）

低炭素型の都市づくり

- ・ 市街地の拡大を抑制し、都心・拠点や都市軸等に都市機能を集約するとともに、公共交通を中心とした交通体系を構築し、資源・エネルギーの消費が少なく、エネルギー効率の高い都市構造を形成する。
- ・ 二酸化炭素吸収源としての森林等の保全や創出を進めるとともに、森林資源の持続的な利活用に努める。
- ・ オフィスビルや民間住宅などにおいて、省エネルギー機器の導入やエネルギー効率の高い建築物の普及、中古住宅の市場流通を促進する。
- ・ 公共施設の整備・改修に当たっては、再生可能エネルギーの利活用や省エネルギー機器の導入、施設の長寿命化を進める。
- ・ 省エネルギー行動の周知啓発や、市民・事業者との協働によるキャンペーンを実施するなど、低炭素型のライフスタイル・ビジネススタイルの普及を進める。

循環型の都市づくり

- ・ ごみ減量・リサイクル推進の広報・啓発を進めるとともに、再生可能な紙類などの資源物について、家庭ごみや事業ごみの分別促進を図り、リサイクルを進める。
- ・ 町内会や子ども会、クリーン仙台推進員などの地域に根ざした市民活動などにより、ごみ減量とリサイクルを推進する。
- ・ 廃棄物処理業者の指導・監督等により、廃棄物の適正処理を確保するとともに、廃棄物の不適正排出や不法投棄の対策を強化する。
- ・ ごみ処理施設の配置や収集運搬方法を最適化するなど、長期的に安全・安心で環境に与える負荷を低減させるごみ処理体制の確保を図る。

良好で快適な環境を守り、創る都市づくり

- ・ 大気汚染や騒音・振動などの発生源に対して、負荷低減の指導・監督などを行い、汚染や被害の未然防止の徹底を図る。
- ・ 低公害車の普及促進やエコドライブの推進などにより、自動車による環境負荷低減を進める。
- ・ 汚濁負荷発生源への指導・監督の実施や、合流式下水道から雨水と共に排出される汚水の流出量の削減などにより、清潔で安全な水質環境の保全を図る。

自然と共生する都市づくり

- ・ 土地利用規制等の適切な運用により、自然環境を保全するとともに、適正な土地利用を誘導する。
- ・ 生物多様性に関する情報を収集し、自然環境や生物多様性の大切さを普及啓発する。
- ・ 森林の保全や里山・田園が持つ環境機能の維持・向上を図るなど、森林等の自然や多様な生態系の保全、水源の涵養を図る。
- ・ 森林や農地、水辺等の資源を活用し、市民が自然とふれあう機会の充実を図る。
- ・ 河川の水源や水辺環境の確保など、健全な水環境の保全を進める。

良好な環境を支える仕組み・人づくり

- ・ 地域の個性や環境資源を生かした市民主体の活動やまちづくりのルールづくりなどを促進するとともに、事業者の環境配慮を促進する。
- ・ 環境配慮を促す仕組みの充実を図るとともに、F E E L Sendai(杜の都の市民環境教育・学習推進会議) を核として、環境教育・環境学習を推進し、環境の保全と創造に主体的に取り組む人材を育てる。
- ・ N P O や大学、事業者等との連携により、環境に配慮した社会経済の仕組みや人づくりを進めるとともに、環境に関する情報発信や国際交流を推進する。

(2) 美しく緑豊かな都市空間づくり

(動向と課題)

本市の西部には豊かな緑をたたえる奥羽山脈、また、東部には多様な生物を育む干潟や海岸林があり、これらをつなぐ七北田川や名取川、広瀬川などの河川や丘陵地と共に、杜の都の骨格をなす市の貴重な財産となっている。

景観法に基づく景観計画を策定するとともに、景観の誘導を行ってきた。

広瀬川や青葉通、市民の憩いの場となる公園など、杜の都にふさわしい魅力づくりが求められている。

美しい街並み、歴史的・文化的建造物、青葉山等の自然景観の保全と活用が求められている。

(施策の方向)

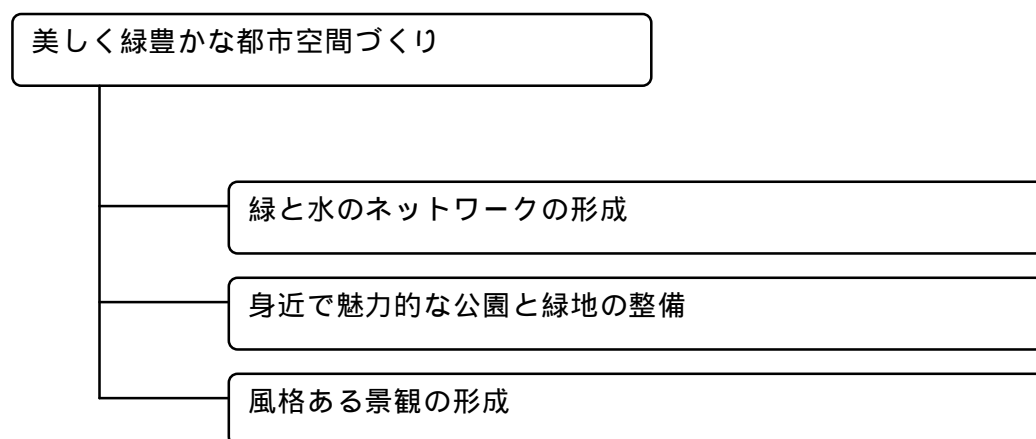
都市の緑を市民共有の財産ととらえ、市民協働で守り育む百年の杜づくりを継続し、市民や来訪者が緑豊かな美しい杜の都を感じることもできる都市づくりを進める。

杜の都の骨格や拠点となる公園緑地や河川環境の保全を図るとともに、都市緑化を進め水と緑のネットワークを形成する。

歴史・文化的資源を活用しながら、市民の憩いの場となり、都市の魅力を高める公園や緑地の創出を進める。

杜の都の風土を育む風格ある景観づくりを進める。

(施策の体系)



（基本的施策）

緑と水のネットワークの形成

- ・ 公共施設や街路の緑化を推進するとともに、民有地の緑化を進める。
- ・ 仙台駅を中心に半径 2 km 程度の圏内を重点的に緑化する地域と位置づけ、公共施設や街路の緑化を推進する。
- ・ 緑と水の普及啓発を推進するとともに、緑の活動団体への支援や企業との連携により、市民と共に緑と水のまちづくりを進める。
- ・ 保存緑地や特別緑地保全地区の保全と管理、杜の都の原風景を残す屋敷林・居久根・社寺林の保全と活用、歴史を刻む名木・古木などの保存と活用など、地域の環境資源の保全と活用を図る。
- ・ 連続性のある美しい並木景観を守り育てていくため、街路樹の適正な維持管理を進めるとともに、青葉通のケヤキ並木を再生し、仙台駅から青葉山につながる緑の回廊を形成する。
- ・ 広瀬川や名取川、七北田川などの清流を保全するとともに、市民活動団体などとの協働により新たな魅力の創出を図る。

身近で魅力的な公園と緑地の整備

- ・ 青葉山公園の整備を進めるとともに、広瀬川を取り囲む西公園、大年寺山公園等について、歴史・文化をつなぐ緑の拠点として一体的なエリア形成を図る。
- ・ 地域の緑の拠点として、高砂中央公園等の公園緑化を計画的に進めるとともに、榴岡公園や台原森林公園などの既存公園の再整備を推進する。
- ・ 市民の憩いの場であり、災害時の避難地、救援活動拠点となる都市公園の整備を進める。
- ・ 公園施設の適正な機能維持や、計画的な改修・修繕による長寿命化を図るとともに、市民活動団体や企業との連携による公園の運営管理を進める。

風格ある景観の形成

- ・ 杜の都の風土を育む景観条例や広瀬川の清流を守る条例、景観法に基づく景観計画の基準に基づき、建築物・工作物の形態意匠・高さ・色彩などを制限し、良好な景観形成を図る。
- ・ 景観法に基づく景観地区制度等を活用し、建築物等の屋外広告物や高さの制限など、良好な景観形成を誘導する。
- ・ 景観重要建造物の指定や歴史的な資産を活用したまちづくりの支援など、景観資源の保全と活用を図る。

(3) 機能集約・地域再生型の市街地の形成

(動向と課題)

人口減少社会を迎えるなか、地球環境にも配慮し、自動車に過度に依存しない鉄道等の公共交通を中心とした集約型の市街地形成が求められている。

都心は東北全体を支える交流拠点として、泉中央地区や長町地区は市民や都市圏住民の活動拠点として、大きな役割が求められている。

地下鉄東西線は、研究や産業、文化、レクリエーションなどの多様な機能を結び、新しい価値を創造する大きな役割が求められている。

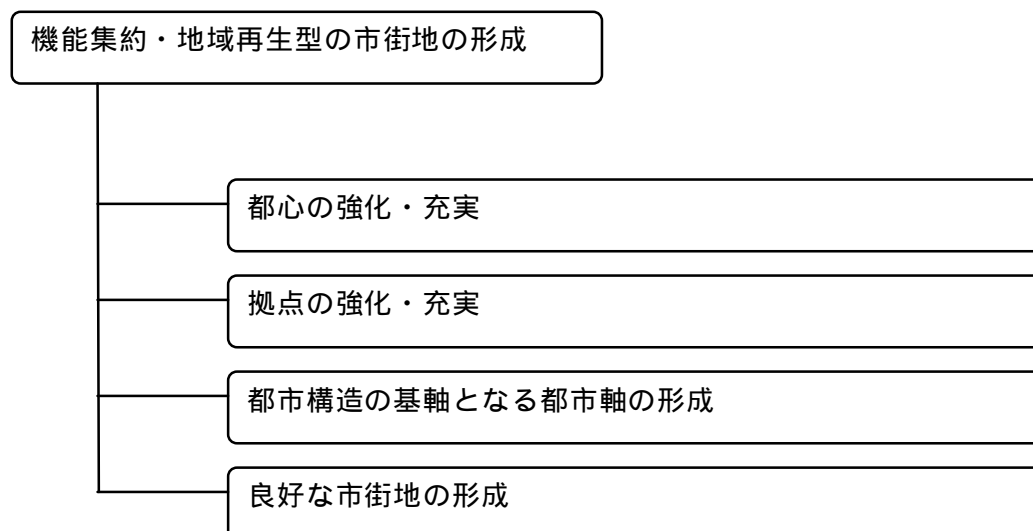
郊外区域においては、生活基盤の機能低下やコミュニティの衰退などの問題が発生する恐れがあり、計画的な対応策が求められている。

(施策の方向)

市街地の拡大を抑制し、都心・拠点や都市軸等に都市機能を集約するとともに、郊外区域の生活環境の維持・改善を図る。

機能集約型の都市構造の基軸となる「都市軸」の形成を図る。

(施策の体系)



（基本的施策）

都心の強化・充実

- ・ 「都心」においては、東北や都市圏の交流の拠点として、商業・業務機能や国際交流機能、文化芸術機能、居住機能などの多様な都市機能と交通環境が調和して、相乗的に都市活力を生み出す都市基盤の強化・充実を図る。
- ・ 仙台駅東地区の土地区画整理事業、市街地再開発事業、優良建築物等整備事業などにより、東北の中枢にふさわしい都市基盤整備と土地の高度利用、市街地環境の改善を進める。
- ・ 仙台駅の東西連絡自由通路の架け替えなど、駅周辺の機能強化により、東北の玄関口にふさわしい交通結節機能の強化を進める。

拠点の強化・充実

- ・ 泉中央および長町地区に配置する「広域拠点」においては、都心との機能分担や連携を図りながら、都市圏の生活拠点にふさわしい魅力的で個性ある都市機能の集積を進めるとともに、都市機能の再生・強化を図る。
- ・ 仙台港周辺の「国際経済流通拠点」においては、国際的な経済・物流・交流機能の誘導をさらに推進するとともに、青葉山周辺の「学術文化交流拠点」においては、国際的な学術文化・交流機能の誘導を一層推進する。

都市構造の基軸となる都市軸の形成

- ・ 地下鉄南北線および東西線沿線においては、都心・拠点等と連携し機能集約型の都市構造の基軸となり、新たな価値を生み出していく十文字型の「都市軸」を形成するため、駅を中心とした、土地の高度利用や都市機能の集積を進める。
- ・ 地下鉄東西線沿線においては、それぞれの地域特性や多様な資源を生かした都市機能の集積を図り、市民と共に駅周辺にふさわしいまちづくりを進める。
- ・ 地下鉄南北線沿線においては、広域拠点を補完する都市機能を誘導するとともに、すでに集積されている都市機能の更新・充実を図る。

良好な市街地の形成

- ・ 鉄道沿線区域においては、鉄道を中心とした交通利便性を生かし、生活を支える都市機能の充実を図るとともに、郊外区域等からの住み替えを誘導する。
- ・ 工業・流通・研究開発区域においては、国際的、広域的な産業機能や研究開発機能のさらなる集積を進めるとともに、産業構造の変化に対応した地域産業機能の集積を図る。
- ・ 土地区画整理事業や市街地再開発事業などにより都市基盤を整備し土地の高度利用を図り、魅力ある市街地の形成を進めるとともに、地区計画などによる地域特性を生かした土地利用を図る。
- ・ 大規模施設跡地等の土地利用については、都市の魅力を高めるとともに、周辺地区と調和のとれた土地の有効活用を図る。
- ・ 郊外区域においては、生活を支える都市機能の維持や良好な生活環境の形成を図る。
- ・ 郊外区域のうち特に地域活動や生活利便性の低下が懸念される地域においては、土地利

用や交通、福祉、コミュニティ等さまざまな分野の連携を図りながら、市民と共に生活環境のあり方を検討し、その維持・改善等に向けた取り組みを進める。

(4) 公共交通中心の利便性の高い交通体系の構築

(動向と課題)

機能集約型の都市構造の形成に向け、地下鉄東西線開業を見据えた公共交通中心の交通体系が求められている。

低炭素社会への要請が高まるなか、自動車に過度に依存した社会からの転換が求められている。

高齢化が進展するなか、買い物や通院など日常の移動手段の確保が求められている。

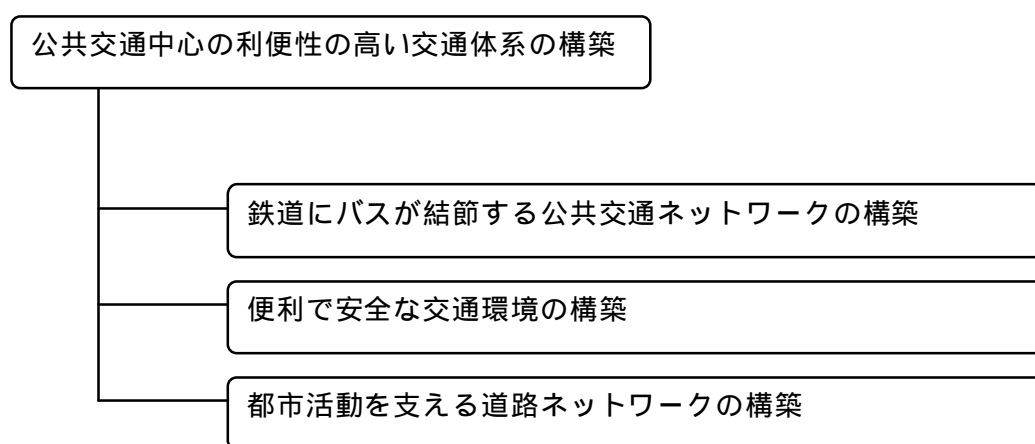
(施策の方向)

鉄道が中心となり、バスがそれを補完する、公共交通中心の交通体系の構築を図る。

都心の交通環境の改善を図るとともに、地域に根ざした持続可能な生活交通の確保に向けた取り組みを進める。

都市の活力を支え市民生活を向上させる道路ネットワークについて、優先順位を明確にしながら、効果的な整備を進める。

(施策の体系)



(基本的施策)

鉄道にバスが結節する公共交通ネットワークの構築

- ・ 持続可能な都市の形成に向け、定時性・速達性に優れ環境負荷の小さい鉄道を公共交通体系の中心とするため、地下鉄東西線の整備を推進し、地下鉄南北線およびＪＲ線と合わせて鉄道ネットワークの構築を図る。
- ・ 鉄道と連携したバス路線の再編を進めるとともに、鉄道が利用しにくい一部の地域等においては、定時性・速達性に優れたバスの導入を推進する。
- ・ 鉄道への乗り継ぎ利便性を高めるため、駅前広場やパークアンドライド駐車場の整備など、結節機能の強化を図る。
- ・ 公共交通の利用促進のために、利用しやすい運賃のあり方の検討を進めるとともに、せんだいスマートの推進や、利便性を高めるＩＣ乗車券の導入を図る。
- ・ 既存の鉄道駅やバス車両のバリアフリー化や機能の高度化、バス停環境の改善などを進め、公共交通の利用環境の改善を図る。

便利で安全な交通環境の構築

- ・ 都心や鉄道駅を中心としたエリアにおいて、歩行者等の安全と両立を図りながら、自転車の利用環境の向上を図る。
- ・ 駐車施設の増加抑制や共同荷さばき駐車施設の設置など、都市内物流の効率化の検討を進め、都心の交通環境の向上を図る。
- ・ 路線バスの維持のために、住民・利用者、バス事業者、行政の協働による仕組みの構築を図る
- ・ 路線バスの運行サービスが不十分な地区などにおいては、協働による乗合タクシーなど、地域に根ざした持続可能な生活交通の導入を図る。

都市活動を支える道路ネットワークの構築

- ・ 自動車に過度に依存しない公共交通を中心とする交通体系を支えるとともに、産業活動など都市の活力を支える道路ネットワークについては、優先順位を明確にし、効果的な整備を進める。
- ・ 地下鉄東西線に関連する道路、交通結節点や鉄道駅へのアクセス道路、バス路線の機能を強化する道路などについて、優先的な整備を進める。
- ・ 市の骨格的なネットワークを形成する高規格幹線道路へのアクセス道路、交流・物流を支え地域経済の成長を促進する道路などについて、優先的な整備を進める。

(5) 地域を支える経済・活力づくり

(動向と課題)

人口減少等により本市の経済成長率の鈍化が危惧されるなか、地域経済の活性化、雇用の維持・確保が求められている。

都市圏北部において、自動車関連産業などの大規模製造業の集積が進んでいる。

産学連携や企業間連携によるイノベーションの創出が求められている。

高い付加価値を生む都市型産業の振興と立地が求められている。

高齢化が急速に進行するなか、医療や介護などの課題を解決する産業が求められている。商店街を取り巻く環境が厳しさを増すなか、中心部商店街においては、東北の商業機能の中核としての役割が求められるとともに、地域商店街においては、地域の要としての役割が求められている。

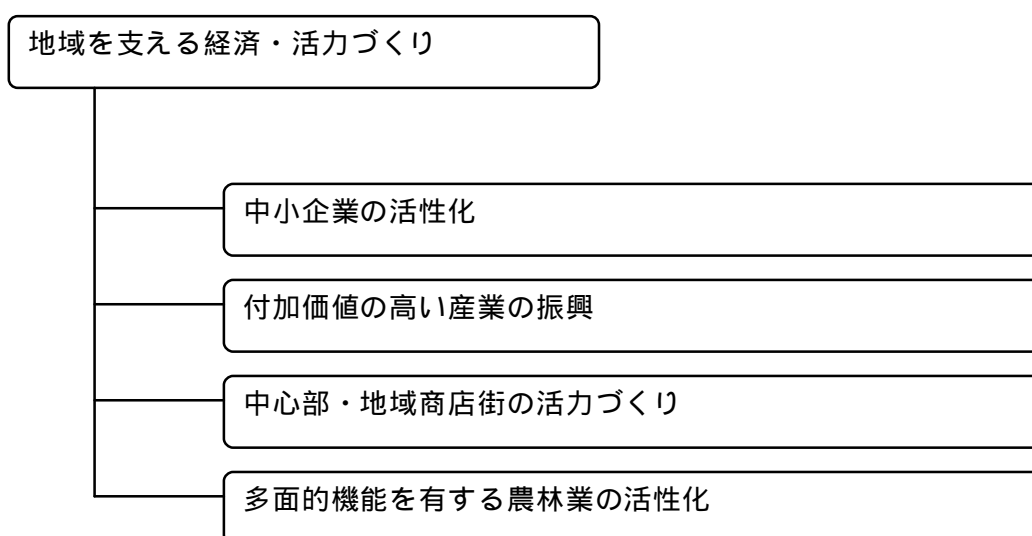
食料供給に加え、国土の保全など、多面的な機能を有する農林業の維持・存続が求められている。

(施策の方向)

都市の活力と市民生活の豊かさを支える産業の振興を図り、多様な雇用機会を創出する。商都・仙台の中心部商店街においては集客力の強化に向けた魅力の向上を図るとともに、地域商店街においては地域特性を生かした魅力の向上を図る。

食料の供給、自然環境の保全、生物多様性の維持など、多面的な機能を有する農林業の活性化を図る。

(施策の体系)



（基本的施策）

中小企業の活性化

- ・ 金融支援や経営診断・指導、法律相談などにより、中小企業の安定した経営基盤の確保を図る。
- ・ キャリア相談や求人求職支援サイトの運営などにより、雇用・就業機会の支援を図る。
- ・ 企業と学校との仲介機能の強化を図るなど、若者の就業や起業を支援する。
- ・ インキュベーション施設利用者の支援やセミナーの開催など、起業家やベンチャー企業の育成を図る。
- ・ 都市圏における大規模製造業の立地集積を捉え、産学連携や企業間連携のネットワーク化などにより、製品開発型の中小企業を支援する体制づくりを進める。

付加価値の高い産業の振興

- ・ 印刷、デザイン、ＩＴ、コンテンツ産業など、文化や芸術を活用したクリエイティブ産業の振興を図るとともに、製造業や観光業など他産業との連携を支援する。
- ・ 新製品などの事業化を支援する企業訪問、次世代技術を活用した新産業の創出など、大学などの知的資源を生かし、本市産業の技術力の向上を図る。
- ・ 情報技術を活用した付加価値の高い健康福祉機器・サービスの研究開発を促進し、先導予防型の健康福祉サービスクラスターの形成を図る。
- ・ 研究開発型施設やソフトウェア業など、本市産業の競争力を高める産業分野をターゲットに、あすと長町や青葉山サイエンスパークなどへの企業誘致を図る。
- ・ 地下鉄東西線沿線のまちづくりと連動した産業集積を図る。
- ・ 海外の研究機関等との関係強化により、本市産業の技術力・研究開発力の向上を図る。

中心部・地域商店街の活力づくり

- ・ 中心部商店街においては、地下鉄東西線の開業を見据え、情報発信や観光とのタイアップ、イベントとの連携などを支援し、集客力の向上を図る。
- ・ 関係機関の連携による、エリアマネジメントを担う組織の設立を支援し、住民・事業者・地権者などによる主体的・継続的な取り組みを進め、中心部商店街の活性化を図る。
- ・ 地域商店街においては、人材育成や地域との連携を支援し、地域資源を生かした活動の活性化を図る。

多面的機能を有する農林業の活性化

- ・ 米・麦・大豆などの水田農業の新たな仕組みづくりや、中山間地域の農地の有効活用などを進め、食料供給力の向上を図るとともに、農業施設の計画的な維持管理を行うなど、優良農地の保全を図る。
- ・ 認定農業者や集落営農組織の育成、法人経営への誘導を進めるとともに、女性農業者の育成と支援、新規就農者の支援等に取り組み、多様な農業経営の担い手の確保と育成を図る。
- ・ 農商工連携の支援、地産地消の推進、グリーンツーリズムの推進など、農業経営の多角化を進め、地域産業の振興を図る。

- ・ エコファーマーなどの認定促進など、持続性の高い生産方式への転換を推進するとともに、市民農園や学童農園など、市民が農業とふれあう機会の拡大を図る。
- ・ 民有林における林業振興や、市民参加による森林管理などにより、森林の施業を適切に進める。

(6) 魅力を向上する都市力づくり

(動向と課題)

都市間競争の中で都市の魅力づくりが重要となっており、本市のブランド力の向上が求められている。

定住人口の増加が見込めないなか、本市の観光資源やコンベンション機能などを生かした交流人口の拡大が求められている。

東北新幹線や自動車専用環状道路、高速バスなどのネットワークが充実するなど、東北地方や仙台都市圏における広域交通体系の整備が進むなか、東北の交流拠点としての役割が一層求められている。

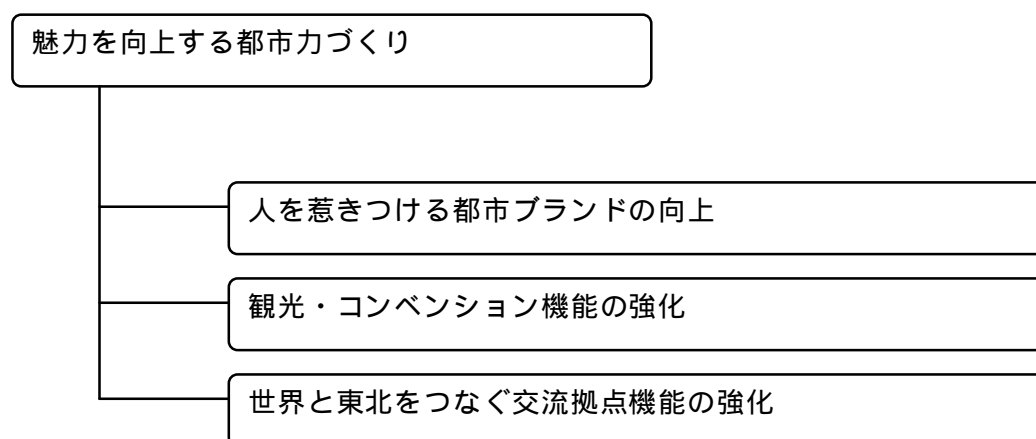
(施策の方向)

大学や企業、東北の他都市と連携しながら、交流資源を発掘・創造し、都市のブランド力を向上する。

多彩なイベントの開催や効果的なプロモーション活動、交流機能の強化などにより、交流人口を拡大し、地域経済の活性化を図る。

東北の他都市との連携を強化し、東北地方および仙台都市圏における広域的な交通網や物流機能を生かし、東北全体の発展を支える。

(施策の体系)



(基本的施策)

人を惹きつける都市ブランドの向上

- ・ 東北の他都市や企業、大学等と連携を図りながら、東北・仙台のブランド力づくりを進め、国内はもとより東アジアをはじめとする海外に向けた戦略的な情報発信を行う。
- ・ Jリーグチーム、プロ野球チーム、bjリーグチームのプロスポーツの推進、さまざまなスポーツの国際大会や仙台ハーフマラソンの開催など、市民がレベルの高い生の感動を味わう機会を拡大するとともに、躍動感あふれるまちのイメージを向上させる。
- ・ 仙台国際音楽コンクールや仙台クラシックフェスティバルの開催、仙台フィルハーモニー管弦楽団の支援と活用、演劇祭の開催など、市民が高いレベルの芸術に親しめる機会を拡大するとともに、「楽都」「劇都」としてのブランド力の向上を図る。
- ・ 「楽都」の中核となる大規模な音楽ホールの整備に向けた検討を進める。
- ・ 仙台七夕まつり、仙台・青葉まつり、SEND A I 光のページェントや定禅寺ストリートジャズフェスティバル、みちのくYOSAKOI祭りなど、仙台の風物詩である市民創造型のイベントを支援し、市民の創造性や一体感を育むとともに、交流人口の拡大を図る。
- ・ (仮称) 国際センター駅周辺地区において、仙台城跡や博物館、青葉山公園等の多様な歴史的・文化的資源との連携を図りながら、コンベンション機能を強化する施設の整備を検討する。

観光・コンベンション機能の強化

- ・ 首都圏をはじめ全国に向け、国内観光プロモーションとしての情報発信や誘致活動等を展開し、誘客の促進と交流人口の拡大を図る。
- ・ 国内外からの観光客やコンベンション開催のニーズに対応できるよう、受入環境や都市機能を整備し、さらなる誘客を図る。
- ・ 県内や近隣の地方自治体との広域連携により、集客につながる共同事業を展開し、広域的な観光ゾーンとしての総合的な魅力の向上を図る。
- ・ コンベンション機能の強化や受入態勢の充実などにより、国際的な会議やイベントの誘致を進める。
- ・ 秋保・作並地区の温泉や豊かな自然、工芸などの地域資源を生かし、魅力ある観光地づくりを進める。
- ・ 東アジア諸国・地域を中心として、セミナー等の開催やメディア・旅行会社の招へいなど、積極的なプロモーションを展開し、外国人観光客の誘致を図る。

世界と東北をつなぐ交流拠点機能の強化

- ・ 国際姉妹・友好都市などを中心に市民やNPO、企業による自発的な国際交流活動を推進する。
- ・ 展示会や見本市の開催・出展など、東アジアをはじめ海外との経済交流を進める。
- ・ 関係機関と連携し、仙台空港や仙台港の利用促進を図り、国際交流基盤の強化を図る。
- ・ 本市および東北の産業の発展を支えるため、広域的な交通ネットワークの充実や、仙台駅周辺の機能強化を進めるなど、産業や交流の要となる都市機能の充実を図る。